ＪＡＭ岐阜シニアクラブ第20回定期総会を開催　20周年記念事業など確認

岐阜シニアクラブ　通信員　傍島　征夫

11月2日、第20回岐阜シニアクラブ定期総会をワークプラザ岐阜会場において開催した。

今回は、海外で発生した新型コロナウイルスの感染症が国内においても広まり、現在、感染者数が10万５０００人以上に増加している。その内、岐阜県内においては、感染者数が７００人以上に増加するなか、今年度の定期総会を開催するにあたり、会場へ入る際に一人ひとりの検温を実施しながら、三密を防ぐ対策として、招集人員を25名に削減して開催することとした。

はじめに、岐阜シニアクラブ北村務会長は「シニアクラブの２０２０年度活動方針に基づいた事業活動をすすめようとした矢先に、国内で新型コロナウイルスの感染者が急激に広まった。３月より行動の自粛要請が２ヶ月間にわたり示されたものの、いまだに終息していない。岐阜シニアクラブとしての会合や会員交流を基本とする取り組みが出来ずに、いまも模索の状態が続いている」とシニア活動の現状を語った。

しかしながら、２０２０年度活動方針に提起した「シニア会員の拡大に実績をだすことが出来なかったこと、この要因は我々の努力不足である。この問題を少しずつ埋めていくには、ＪＡＭ東海とＪＡＭ本部との連携を踏まえながら、１単組で１人でも会員を増加する努力を

していかなければならない」と挨拶され、我々役員も一人ひとりが反省点を踏まえながら努力していかなければならないことを痛感した。

その後、事務局長より活動報告と会計決算報告、会計監査より会計監査報告を行い、審議後、承認した。続いて、２０２１年度活動方針（案）と予算(案)を提案、審議し、各議案とも原案通り承認された。なお、機関紙「すこやか号」の発行を継続し、次年度の「岐阜シニアクラブ 20 周年記念事業」も併せて検討していくことを確認した。